

第47号 (2020年度)



国際親善ニュース



山野市長がベルギー王国レオポルド勲章オフィシエ章を授章



蘇州市中高生オンライン交流会議

金沢市姉妹都市交流委員会

コロナ禍での海外との交流

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海外との派遣・受入交流が難しい現状では、地域内の外国人住民や留学生らグローバルな視野をもつ住民との交流が重要となります。

また今後は、リアルな直接訪問の交流と、デジタル化による交流手法とを組み合わせることは続くと思われ、今年度は、オンラインによる交流事業やこれまで培った関係をさらに強くするSNSなどのネット交流事業を進めました。

#StayHome 初！オンライン国際理解講座

2020年6月30日に、市民を対象とした国際理解講座を初めてオンラインで開催しました。オンライン会議システムZoomを使用し開催したもので、10名の参加者が各々の自宅から受講しました。まずはアメリカ、ベルギー、フランス、中国の4ヶ国の基本的な情報について、日本と比較しながら紹介した後、姉妹都市や母



国の文化について紹介しました。その中にはあまり日本で知られていない話も多く、例えば中国では「太ったね!」は幸せそうな様子を表す場合があることや、フランスで普通にコーヒーを注文するとエスプレッソが出てくるとなど、日本との文化の違いに参加者は驚いていました。発表後は参加者からたくさんの質問が寄せられ、国際交流員とのやりとりを楽しんでいました。

講座後の参加者アンケートでは、「国際交流員の方の目線による自国紹介に親近感が持てた」「感染の心配がなく、安心して受講できた」などのコメントが寄せられました。

小学生向けオンライン国際理解講座「おうちで姉妹都市めぐり」

2020年10月17日に、小学生を対象としたオンライン国際理解講座「おうちで姉妹都市めぐり」を開催しました。これは、海外との直接の交流が難しい状況のなか、子どもたちに姉妹都市をはじめとした諸外国について理解を少しでも深めてもらおうと実施したものです。今回は新しい試みとして、自宅にいながら姉妹都市へ旅行した気分を味わってもらえるよう、駅西新町にある姉妹都市公園を舞台に、姉妹都市を紹介する動画を制作しました。国際交流員は動画の企画構成や公園での撮影、ナレーション録音などに挑戦しました。

当日は第一部、第二部合わせて12名の小学生が自宅から参加しました。第一部ではアイスブレイクとして、中国のSNSで流行した「手のダンス」を、国際交流員がお手本を見せながら一緒にチャレンジしまし

た。その後、アメリカ・バッファロー市、フランス・ナンシー市について動画で紹介し、クイズを出題しました。

第二部では、ジェスチャーゲームを行ったあと、中国・蘇州市とベルギー・アントワープ市を動画で紹介しました。ジェスチャーゲームは国際交流員がそれぞれの国で使われるジェスチャーを紹介するもので、欧米では人差し指と中指をクロスするしぐさは「幸運を祈る」という意味があること、中国では親指と人差し指を立てるしぐさは数字の8を表すことなどを紹介し、子どもたちを驚かせていました。

最初は緊張していた子どもたちも、ゲームなどを通して少しずつ緊張が解けていったようで、最後の質疑応答の時間には国際交流員に積極的に質問していました。参加者アンケートでは、「自宅にいながら気軽に参加でき、とても楽しかった」「外国に行ってみたいと思った」などのコメントが寄せられました。

なお、今回制作した姉妹都市紹介動画は金沢市公式YouTubeチャンネルに掲載されています！こちらのQRコードからご覧ください。



姉妹都市公園での撮影の様子

こくさいこうりゅういん

ウェイボー

し ま い と し

に じ つ う し ん

か い し

国際交流員によるフェイスブック・微博コラム「姉妹都市 虹通信」を開始！

新型コロナウイルス感染拡大で外出制限を行う国が増える中、閉塞感を募らせている姉妹都市の市民を元気づけるとともに金沢の魅力発信のため、国際交流員によるコラム「姉妹都市 虹通信」を2020年5月2日から開始しました。国際交流員が週替わりで記事の企画・執筆を担当し、金沢市公式フェイスブック（中国に関する記事は中国SNSの微博）で毎週土曜日に投稿しました。

投稿内容は多岐にわたり、四季折々の美しい金沢の風景の動画や、これまでの姉妹都市との交流、また姉妹都市から届いたコロナ禍でも楽しむ工夫を紹介する記事もありました。

投稿記事には毎回日本語だけでなく、担当した国際交流員の母国語も表記して投稿したため、日本だけでなく世界の方々に見ていただくことができました。

これまでの投稿で、たくさんの「いいね！」やシェアをいただき、「素敵な動画をシェアしてくれてありがとう」「いつか金沢へ行ってみたい！」などのコメントが様々な言語で寄せられ、このコラムを通して金沢市民と姉妹都市の市民へエールを送ることができました。

過去の投稿は金沢市公式フェイスブック及び微博の金沢市ページからぜひご覧ください。



パッファロー



гент



ナンシー



全州



蘇州（微博）



微博



フェイスブック

コロナ禍での医療物資の相互支援

新型コロナウイルスによりマスクなどの医療物資が世界的に品薄となるなか、2020年2月5日に金沢市から蘇州市と大連市へマスクを送りました。その後、日本でマスクが品薄になった4月には、両市からマスクをはじめとした医療物資をいただき、相互支援を行いました。元金沢市国際交流員や研修員で構成する「金沢－蘇州サポーターズクラブ」からは、「金沢で生活したときにお世話になった市民に恩返しをしたい」と、生活支援などでお世話になった金沢市日中友好協会を

通じてマスクを寄贈していただきました。他にも中国の関係団体や企業、また台湾からも多くの支援物資を金沢市へ寄附していただきました。いただいた医療物資は病院や福祉施設などに配布し活用されました。



蘇州市へ送るマスク

姉妹都市への支援物資			
日付	相手方	品名	数
2/5	蘇州市	サージカルマスク	10,000 枚
2/5	大連市	サージカルマスク	10,000 枚

金沢市への支援物資			
日付	寄贈元	品名	数
3/27	大連市	マスク 医療用防護服 感染エリア対応防護服 医療用ゴム製手袋	25,000 枚 500 着 500 着 10,000 組
3/31	石川県華僑華人联谊会	サージカルマスク（大・小）	4,000 枚
4/3、4/16	蘇州市	医療用 サージカルマスク	20,000 枚
4/13	蘇州市青年連合会・金沢青年会議所	サージカルマスク	3,000 枚
4/13	金沢市日中友好協会	マスク	200 枚

日付	寄贈元	品名	数
4/30	遼寧成大股份有限公司	マスク	100,000 枚
5/14	台南市台日文化友好交流基金会	防護服 フェイスシールド マスク	300 着 300 枚 500 枚
5/14	台南市	保護メガネ マスクガセット	300 個 400 枚
5/18	台湾政府	サージカルマスク	2,500 枚
5/29	傑楽遥	マスク	2,000 枚
6/4	ハイウェイ・リバーメンテナンス㈱、広東省対外友好協会	マスク	50,000 枚
6/5	金沢－蘇州市サポーターズクラブ	マスク	1,800 枚
6/5	金沢市日中友好協会	マスク	200 枚
8/26	八田興一文化藝術基金会	サージカルマスク	60,000 枚

多文化共生事業

ネット交流事業に加え、内なる国際化を進めるため、「地域共生社会の実現」に向けて、行政や生活の多言語情報発信を通じて、「日本人も外国人もともに暮らしやすいコミュニティづくり」に取り組みました。

かなざわ外国人緊急ネットの配信開始

金沢市は、金沢国際交流財団やNPO法人YOU-Iと連携して、日本語が十分理解できない外国人住民にも、新型コロナウイルスの感染防止や災害・防災に関する情報を伝えるため、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）ラインによるネットワークづくりを行いました。

近年はインターネットやスマートフォンの普及によって、SNSを利用し情報交換することが多いことから、金沢市での居住歴が長く日本語の堪能な外国人住民をキーパーソンとするSNSによるネットワークをつくり、災害が発生した場合に情報収集や避難などが行いにくい外国人住民に、緊急情報等について迅速に提供できる連絡体制を整えました。

情報は、英語、中国語、インドネシア語、ベトナム語及びタイ語の5言語にやさしい日本語を加えた6つのグループで翻訳され、登録者約150人に配信されました。日本人住民への情報をそのまま翻訳してもわかりにくい場合もあるため、日本の生活環境やマナーにも精通した日本語の堪能なキーパーソンに翻訳を担当してもらうことで、言語や文化も違う外国人住民にも内容を理解しやすく発信することができ、また、同じ出身国の住民を支える仕組みを整えることで、きめ細か

な生活サポートにもつながるものとして期待しています。



（配信内容）

1. 金沢市緊急事態宣言（2020年4月）
2. 特別定額給付金の申請受付について（5月）
3. かなざわ多言語防災サイトのお知らせ（7月）
4. 熱中症にご注意ください！（7月）
5. 「特別定額給付金」の申請はお済みですか？（8月）
6. 2020年10月1日現在で国勢調査を実施します！（9月）
7. 10月も台風シーズンです！また10月1日は国勢調査の基準日です！（10月）
8. クマに注意しましょう！（11月）
9. 新型コロナウイルス感染症対策を徹底しましょう！（12月）
10. 冬は雪の季節です。雪に関する備えを！（2021年1月）
11. 新型コロナウイルスワクチン接種のための準備をしています（2月）

多言語表記ガイドラインを策定！

金沢市は、外国人住民や観光客の増加に伴って、多言語での表記など言語環境を改善し、ピクトグラム（案内用図記号）などを活用しながら、様々な情報を効果的に伝えるための取組方向を示す指針として「多言語表記ガイドライン」をとりまとめました。

ガイドラインは今後、金沢市国際交流関係部局ワーキングでの研修で活用するほか、多くの方が活用できるよう、HPに掲載し、周知をはかります。



【内 容】

- (1) 対象者の選定
 - ・情報の対象者を明確化
- (2) 使用言語の選定
 - ・対象者の特性に考慮して言語を決定
 - ・媒体の特徴を踏まえて優先言語を決定
 - ・やさしい日本語の活用も検討
- (3) 誰にでも分かりやすい資料づくり
 - ・デザインや文字の大きさと太さ、フォントを工夫
 - ・図や写真、ピクトグラム（案内用図記号）の活用
- (4) 使い勝手の良い情報発信手法を使った発信
 - ・QRコードから、多言語WEBサイトへ誘導
 - ・外国人住民のSNSネットワークを活用して情報を発信
 - ・多言語の情報を集約し、アクセス性を向上
 - ・動画を活用し魅力発信や、申請手続きの理解度を向上
 - ・地域コミュニティを活用し、地域行事やマナーを周知

(5) 安心・安全であるための情報発信

- ・感染症拡大防止対策の発信や緊急時のアプリ活用
- ・写真などによる食材情報の提供



（アレルギー、ベジタリアン・ヴィーガン対応のピクトグラム例）

【多言語表記ガイドライン策定委員会 委員】

分 野	氏 名	所属・役職
学識経験者	岸田 由美	金沢大学准教授（留学生担当）
和食関係者	高木 慎一郎	銭屋 主人 ※農林水産省「日本食普及の親善大使」
飲食店（ヴィーガン）	森島 幹博	カフェ ロサンゼルス 店主 ※「るみえ〜 in 石川」事務局
商店街（ハラル）	竹内 公明	全開口笑 店主 ※柿木昌振興会 常務理事
在住外国人	ヒクマ・バルバド	町会言語サポーター
国際交流団体	中村 弘志	（公財）金沢国際交流財団 執行理事兼事務局長

【リンク】

金沢市国際交流課のホームページ

<https://www4.city.kanazawa.lg.jp/s/soshiki/seisaku/10020.html>



映像通訳用タブレットの導入

金沢市の窓口では、従来の電話通訳サービスに加え、今年度よりタブレット端末による映像通訳サービスを導入しました。

窓口を訪れた市民とコールセンターの通訳者をタブレット端末で繋ぎ、音声に加えて映像での応対をすることで、画面に申請書類や利用者の身振りなどを映しながら説明ができるため、コミュニケーションがとりやすく、サービスの向上が期待できます。

対応言語：8言語

(英語、中国語、韓国語、ポルトガル語、スペイン語、タイ語、ベトナム語、インドネシア語)

導入課所：市民課、医療保険課、健康政策課、保育幼稚園課、市営住宅課、国際交流課、教育総務課、福祉健康センター

対応時間：土日祝日を除く日の8:30~19:00(タイ語、ベトナム語、インドネシア語は18:00まで)

●機械翻訳機導入

外国人住民対応の充実を図るため、今年度より機械翻訳機「ポケトーク」を導入しました。
翻訳機にはカメラ翻訳機能が搭載されており、会話だけでなく文書の翻訳にも活用されています。

●多言語ライブラリー

市から郵送する国民健康保険料や税金などの住民向け文書(申請書、通知等)を順次、英訳し、一元化してホームページに掲載しています。



日本語支援ボランティア育成事業

外国人住民が年々増加していくに伴い、外国人児童・生徒の日本語習得に対するサポートのニーズが高まってきており、学習を支援するボランティアの育成と支援の仕組みについて検討するため、外国につながる子どもたちに日本語学習の支援を行っている金沢子どもスタディサポートの代表である深澤のぞみ(金沢大学人間社会学域国際学類教授)氏を座長に日本語支援ボランティア育成推進連絡会議が開催されました。会議は、2020年7月10日から3回開催され、学習支援を行っている団体や現場で日本語の指導を行っている教育関係者、地域団体、国際交流団体といった関係者が参加し、意見交換や子どもたちへの持続可能なサポートの仕組みづくりについて検討をしました。



また、子どもたちの日本語・学習をサポートする支援ボランティアを育成する研修も行われ、子供たちが居住している地区での地域連携型日本語教室も試行されました。

【研修会等】

- 8/21 講演「外国につながる子どもたちの学習支援と地域でできること」
講師：小島祥美氏(愛知淑徳大学准教授-当時)
- 9/1 から 基礎講習(オンデマンド+課題)
(2週間) 「外国につながる子どもたちの現状と課題」
講師：深澤のぞみ氏
(金沢子どもスタディサポート代表・金沢大学教授)
- 9/23 講演「地域の活動を支援するオンラインツール
-新しい流れと使い方-」
講師：五十川員申氏(Webディレクター)
- 11/7 講演「外国につながる子どもたちに必要な日本語指導
と今私たちにできること」
講師：築樋博子氏
(豊橋市教育委員会外国人児童生徒教育相談員)
- 11/21 地域連携型日本語教室試行 会場：田上公民館
参加者：ボランティア2名、子ども18名

外国人母子サポートボランティア育成事業

日本の医療制度や生活文化に不慣れで日本語でのコミュニケーションが困難な外国人母子が増える中、子育ての分野において近隣住民がボランティアとしてサポートできる環境づくりを目指し、3か月、1歳半、3歳健診といった乳幼児健診に外国人母子を言語面でサポートするボランティアを育成する

る事業に金沢国際交流財団が取り組みました。
サポートボランティア希望者は、3回のセミナーの受講後、泉野及び元町福祉健康センターで実施された健康診断に、研修生として、国際交流員と一緒に参加しました。

国際交流特使養成塾

留学生等を対象に、金沢の文化等を講義や体験を通じて学ぶ「国際交流特使養成塾」を通年で開催しています。2020年度は計7回開催しました。

1. 概要

特使は、帰国後もSNSや現地でのイベント等で、海外への金沢の魅力発信を担ってもらうことを目的とし、「国際交流特使養成塾」を終了した留学生は、「金沢市国際交流特使」として金沢市長より任命されます。
(特使養成塾受講留学生の国・地域別内訳 2021年3月1日現在)

アイルランド	1
アメリカ	2
インド	2
インドネシア	14
カンボジア	2
スペイン	1
スリランカ	6
スロバキア	1
タイ	1
台湾	4
中国	45
ドイツ	3
パキスタン	3
ベトナム	13
バングラデシュ	3
計	101

2. 講座内容

- 第1回 6月27日(土)
テーマ：中止となった金沢百万石まつりを知る
内容：「金沢百万石まつり」を通して加賀百万石の歴史を学ぶオンライン講座
- 第2回 8月1日(土)
テーマ：加賀八幡起上りを知る
内容：石川県観光物産館で加賀八幡起上りの由来紹介、手描き体験

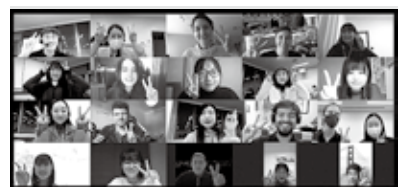
- 第3回 9月12日(土)
テーマ：兼六園・金沢城と茶の心を学ぶ
内容：兼六園・金沢城ガイドツアー、中村記念美術館でのコレクション展見学、茶の湯講座
- 第4回 11月21日(土)
テーマ：九谷焼絵付けを知る
内容：九谷光仙窯での工房見学、絵付け体験
- 第5回 12月19日(土)
テーマ：金沢の発酵食文化を学ぶ
内容：ヤマト醤油味噌 ヤマト糰子パーク見学、発酵食講座、醤油ソフト試食、みそぼろづくり体験
- 第6回 2月5日(金)
テーマ：金沢の冬山の魅力を感じる！
内容：キゴ山ふれあい研修センターで里山についての講義、医王山スキー場でのスキー体験
- 第7回 3月14日(日)
テーマ：金沢素雛子(三味線)を楽しむ
内容：金沢の文化施策に関する講義、三味線体験



姉妹都市サポーターズクラブ特使交流事業の開催

金沢との姉妹都市交流を支える現地の交流拠点である「サポーターズクラブ」などが派遣する海外の若者を受け入れる「国際交流特使養成・短期研修事業」を2015年より行っています。今年度はその代替事業として、現地サポーターズクラブ会員を対象に、金沢の文化等をオンラインで学ぶ体験プログラムを開催しました。当日はブラジル・ポルトアレグレ市、ベルギー・ゲント市、中国・蘇州市から8名が参加しました。参加者には事前に茶道の道具や水引を郵送し、オンラインで講師の指導を受けながら金沢の文化を自宅で体験していただきました。

- 日時：2021年2月20日(土)
内容：17:00～ オンライン茶道体験
18:00～ オンライン水引体験
19:00～ 金沢の学生(北陸大学生5名、市内中高生5名)とオンライン交流会



グローバル人材育成セミナーを初めて開催！

2020年8月31日、地域の若者（日本人大学生）と留学生や国際交流員らが交流しながら、市内の企業見学や経営者からの講義の受講などを通じて、金沢を知る国際感覚を持つ人材として育成するとともに、地元企業への関心を高めるために、「グローバル人材育成セミナー」を北陸大学の田中康友教授の協力を得て開催しました。

ベトナムを中心に海外事業を展開している三谷産業株式会社では、三谷会長から「留学生の雇用や企業の国際化に向けた取り組み」の講義を受講し、企業内を視察し、ベトナム人従業員等と意見交換を行いました。学生らは将来の自分を重ね合わせ、真剣に取り組んでいました。

留学生を積極的に採用している苗加不動産株式会社の張旗超マネージャーとモハマド・ナビル・コーネリス氏が、外国人従業員として学生らと意見交換を行いました。

最後に、田中教授の指導の下、金沢で働く魅力などについて考察し、意見交換を行いました。

（日程）

2020年8月31日（月）

10:00 三谷産業（会長の講義、施設内見学）

14:00 苗加不動産（会社説明、留学生OBの講義と懇談）

※北陸大学で実施

15:00 意見交換、発表

※北陸大学で実施

（参加者）

18名（日本人学生6名、留学生8名、国際交流員4名）



三谷会長の講義



三谷産業の外国人従業員との交流



苗加不動産の外国人従業員との意見交換



グルーptーク

国際交流員

活躍中！

海外経済セミナー参加自治体に 金沢市の国際交流員の活躍を紹介

（一財）自治体国際化協会主催の「第3回海外経済セミナー」が2021年2月26日に開かれ、自治体のインバウンド担当者や観光協会担当者200人に金沢市の国際交流員の活躍ぶりを紹介しました。

会議は「これからのインバウンドを外国人の視点から考える」をテーマに山田敏之国際交流課長が、Zoomを使ったパネルディスカッションのパネラーとして参加しました。事業の例として、国際交流特使、多言語表記ガイドラインの作成を通じて、遠方の海外都市交流、多言語での情報伝達といったバリアを人材ネットワークで乗り越える取り組みを説明しました。

国際交流員による学校訪問

子どもたちに国際交流についての理解を深めてもらうため、国際交流員が学校を訪問して、姉妹都市や母国の文化を紹介する講座を行っています。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、直接の訪問だけでなく、オンラインでの講座も実施しました。

- ・10月1日（木）大徳中学校
- ・12月7日（月）城南中学校（オンライン）

- ・1月19日（火）伏見台小学校
- ・1月27日（水）十一屋小学校



消防実務語学研修

外国人に対する救急搬送などの消防活動を円滑に実施するため、消防局職員を対象とした消防実務語学研修を開催しました。国際交流員が講師となり、身体の部位を表す英単語や症状を表す表現について紹介しました。

研修日：10月14日、10月29日、11月18日

講師：ロスマン・ヘイリー交流員（アメリカ）



「フェアトレードこと始め」の開催

市内のフェアトレード団体などが集結し「フェアトレードこと始め実行委員会」が、フェアトレードの理解を広めるイベント「フェアトレードこと始め」を初めて開催し、セミナーやブースで来場者に取り組みを紹介しました。

金沢市パネラー

中谷美世子

脊戸 陽萌

(金沢大学国際学類公認サークルKuLOs)

小浦むつみ (のっぽくん)

1 日時 2020年10月31日 (土) 10:00~15:00

2 会場 金沢市役所

3 主催 フェアトレードこと始め実行委員会

(会長：中谷美世子)

市民サークル アジール塾 塾長)

4 内容

(1) セミナー (エントランスホール・聴講者70人)

① 講演「フェアトレードタウンで地域に楽しく、世界に優しく、自分に美しく」

講師：原田さとみ

(日本フェアトレード・フォーラム 代表理事)

講演「なぜフェアトレード？

その仕組みと世界での広がり」

講師 中島佳織

(フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長)

② パネルディスカッション

コーディネーター 原田さとみ

ゲストパネラー 中島 佳織

(2) 商品紹介ブース・インフォメーションブースの

設置 (庁舎前広場・来場者2,000人)

・食品、アルパカ製品、山羊皮製品、ミラー製品

第3世界ショップ

・雑貨・食品等 (株)のっぽくん協力)

金沢大学国際学類公認サークルKuLOs

・ecoveda ヘナシリーズ

MYOGA/マイトリイ

・食品、タイ・バングラデシュの民芸品

市民サークル アジール塾

・フィリピンの雑貨 販売・展示

マクラメ雑貨づくり体験

NANASEN JAPAN

・フェアトレードコーヒー

ダートコーヒー株式会社

・金沢SDGsの紹介

IMAGINE KANAZAWA 2030推進会議

・金沢の国際交流活動の紹介

(公財) 金沢国際交流財団

・金沢の姉妹都市のフェアトレードの紹介

金沢市姉妹都市交流委員会



セミナー



ブース



フェアトレードとは？

フェアトレードとは、開発途上国の原料や製品を適正な価格で継続的に購入することにより、立場の弱い途上国の生産者や労働者の生活改善と自立を目指す運動です。

金沢市の行動計画を定める「金沢 SDGs」の2つ目の方向性「環境への負荷を少なくし資源循環型社会をつくる」にも位置付けられています。

国際フェアトレード認証製品には、このラベルがついています



金沢ホストタウンチャンネル開設！

金沢市は、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」に向け、フランスとロシアを相手国としたホストタウン登録を行っています。ホストタウンとは「2020年の大会開催を契機に、参加国・地域との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体」（内閣官房東京オリンピック・パラリンピック推進本部事務局資料より）のことです。

コロナ禍で「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会」が延期になりましたが、引き続き合宿受入に向けて情報の共有やお互いの思いを届ける手段として、YouTube、フェイスブックページ、インスタグラムを開設しました。

2020年6月1日は、金沢のまちを聖火ランナーが走り抜ける日でしたが、その節目に合わせて、フランス・ロシアあてに金沢からのリレー動画を公開し、SNS上での発信を始めました。その後、フランスとロシアの連盟と連絡を取り合い、金沢で合宿を予定している選手たちからメッセージ動画を送ってもらいました。それを受けて、金沢の関係者もメッセージ動画を撮り、発信しました。

金沢ホストタウンチャンネルは当初このようなメッセージ動画の交換のみでしたが、そのほかに金沢の様子を届けたり、食文化や観光地などを紹介するなど、選手および各関係者の事前合宿への「機運が高まる」ように定期的に発信しています。

今後、東京オリンピック・パラリンピックの金沢での事前合宿の様子の配信なども企画していますので、ぜひフォローをお願いします！



ホームページ



Face book



Instagram



YouTube



石川中央都市圏・国際交流連絡会を開催！ ～4市2町が国際交流連携の取り組みを実施～

金沢市は、石川中央都市圏（金沢市、白山市、かほく市、ののいち市、津幡町、内灘町）における連携中枢都市圏を形成し、「石川中央都市圏ビジョン」を推進しています。人口減少・少子高齢社会にあっても、地域を活性化させて経済を持続可能なものとし、安心して快適な暮らしを営むため、「経済成長のけん引」、「高次都市機能の集積・強化」及び「生活関連機能サービスの向上」を行うことが目的です。

この枠組みにおいて、2016年度より4市2町の国際交流所管課が、情報交換や課題の共有等を行うことで連携

を強化し、地域の国際交流の推進を図ることなどを目的とする国際交流連絡会を開催しています。

今年度は、連携を推進するための連絡会を7月・9月に金沢市で、3月にオンラインで行ったほか、国際交流員による企画として、10月3日に金沢市で開催された「カーフリーデー in Kanazawa 2020」に出展しました。4市2町の国際交流員が、それぞれのお菓子を詰め合わせた「世界のお菓子コレクション」を企画したり、世界の食文化を紹介するパネルの展示やゲームコーナーを設けるなど、国際交流の推進を図りました。

バッファロー【アメリカ合衆国】



世界三大瀑布のひとつ「ナイアガラの滝」

提 携 1962年（昭和37年） **人 口** 26万人

面 積 105km²

五大湖のひとつ、エリー湖の東にあり、ニューヨーク州西部の政治、経済、教育、文化の中心地。製鉄・製粉などの工業都市として発展した。市内には、オルブライト・ノックス美術館、州立大学バッファロー校や広大なデラウェア公園があるほか、著名な建築家フランク・ロイド・ライト設計の建物が現存するなど、文化と学術のまちでもある。有名なナイアガラの滝は、北西 25km の所にある。

金沢市・バッファロー市 姉妹都市バーチャルJAZZ交流

バッファロー市近郊のハンブルグ高校ジャズバンドと市民芸術村ジュニア・ジャズ・オーケストラ JAZZ-21が動画で共演しました。

2003年にバッファロー市から届いたメールから交流が始まり、2005年の第54回金沢百万石まつりの百万石行列にハンブルグ高校が参加するなどこれまで何度も交互に訪問し音楽を通して交流を続けてきました。

今年度はハンブルグ高校が金沢を訪れ、9月に開催される予定だった金沢ジャズストリートのプログラムの一つであるジュニアジャズフェスティバルで演奏する予定でしたが、残念ながら中止となり、みんなで演奏する動画を作成して共演することになりました。

演奏曲は、アメリカ伝統の「AMAZING GRACE」をアレンジしたもので、7月からメンバーの一人一人が自宅等で演奏している様子を動画で撮影し、その音源を重ね合わせて一つの演奏にまとめました。

この動画は金沢市公式フェイスブック（虹通信）にアップされたほか、11月1日に金沢市民芸術村で行われたOnlineジュニアジャズフェスティバル金沢2020、JAZZ-21 with Hamburg High Schoolとして公開されました。



JAZZ-21 とハンブルグ高校ジャズバンドの共演動画

日本庭園修復の準備進む

バッファロー市内にある日本庭園の修復準備を石川県造園緑化建設協会が進めています。

この日本庭園は、市内の北部に位置するデラウェア公園内にあり、1962年にバッファロー市との姉妹都市提携を記念して金沢市から贈呈された兼六園ことじ灯籠の複製を中心に整備されました。

今回の修復はバッファロー市の姉妹都市委員会の要望を受けて行われることになっており、2020年8月に修復作業を行う予定でしたが、コロナウイルスの影響で延期となりました。

しかし、修復の準備については進めていくこととなり、庭園の修復に必要な資材や道具をバッファロー市姉妹都市委員会と調整して発送しました。

バレリーナからのメッセージ

バッファロー市の「ネグリア・バレエ」バレエ団と交流している金沢市の「中山芽バレエスタジオ」からバッファローの市民に向けてメッセージ動画が作成されました。

この交流は、2007年からお互いのスタジオへ研修生を何度も派遣し合うなど活発に行われており、今回の動画は2019年にバッファロー市を訪れたバレエ研修生6人がお世話になったバッファロー市民に感謝を伝えるために作成され、金沢市公式フェイスブック（虹通信）にアップされました。



ポルト・アレグレ

【ブラジル連邦共和国】



「風車小屋公園」のことじ灯籠（2017年に金沢市が寄贈）

提 携 1967年（昭和42年） **人 口** 148万人

面 積 497km²

ブラジル南部最大の都市で、リオ・グランデ・ド・スル州の州都。豊かな農牧地帯とリオ・デ・ジャネイロに並ぶ良港を持ち、米、ワイン、たばこ、畜産物などの生産のほか、木材、毛織物、金属等の工業も盛ん。四季ははっきりしており、グウィーバ川沿いに広がる市街は、美しいパトス湖や街路樹に彩られる。まちの入口では、この地のシンボルのガウーショ（カウボーイ）の像が訪れる人々を出迎えている。

金沢友の会からのメッセージ

ポルト・アレグレ市もまた、コロナウイルスの影響を受けていますが、現地の金沢ゆかりの市民らでつくる「金沢友の会」を代表して、ヨシモト・ダニエラ・ユミさんから、金沢市へメッセージが届いているので紹介します。

「皆様お変わりなくお過ごしでしょうか。」

ここポルト・アレグレでも、皆ソーシャルディスタンスの確保や、マスク（日本ではずっと前から使われていましたね）の使用を心がけています。

スーパーマーケットや薬局での買い物、仕事や勉強など、生活に必要な活動を行うときにも、手洗いや、アルコールジェルが不可欠となりました。

生活は大きく変わってしまいました。

ブラジルでは、人々の温かい気持ちの表れとして、挨拶のハグをする習慣がありますが、今日では行っていない。

高齢の方や持病を持っている方はより注意が必要です。そのため、彼らは外出を控え、家族や子供・孫、近所の方まで

もが連携して彼らのための用務を行います。

子どもたちや若者は授業をオンラインで受けています。しかし、貧しい家庭では、コンピュータやスマホを持っていない場合もあるため、簡単なことではありません。このような困難にも日々直面しています。

多くの人が、家族や友人とすら集まっています。恒例の、日曜日のバーベキューランチも控えています。スポーツ、ワークショップ、講座、家庭内活動などの余暇活動も行われておらず、再開を望んでいます。

2020年は非常に困難の多い年でした。ですが、ワクチン接種もはじまる見込みですから、2021年はよりよい年になると信じています。より一層の幸福が金沢や日本の皆様に訪れますように、一緒に頑張りましょう。」



金沢友の会

ポルト・アレグレ市の豆知識

● 沿革

リオ・グランデ・ド・スル州の政治・経済・軍事・文化の中心地として発展し、今日、南ブラジル最大の都市に成長している。ブラジルの中でもサンパウロ、リオの2大都市圏に次ぐメトロポリス。



市役所

起源は1752年にアブレス島からの移住者が住み始めたことにさかのぼる。人種的には西欧的色彩が濃いことが、ブラジルの他の地域と顕著に異なる。在留邦人及び日系人は主に戦後移住者が多い。

● 気温

春15～30℃、夏25～30℃、秋10～25℃、冬2～20℃

● 時 差 12時間

● 距離と時間

サンパウロから飛行機で1時間30分～2時間程度

● 食べ物

ブラジル名物のシュラスコ（肉等を串刺しにしてグリルした料理）店が市内に多い。日本料理店もある。



● 人気のあるスポーツ

有名なサッカーチーム「スポーツクラブ・インターナショナル」（インテル）と「グレミオ」があり、ロナウジーニョの出身地でもある。



グレミオアリーナ

イルクーツク【ロシア連邦】



オンライン交流

提携 1967年（昭和42年） **人口** 62万人

面積 277km²

バイカル湖(世界遺産)の西方にあり、東シベリアの政治、経済、教育、文化の中心地。イルクーツク州の州都。天然資源が豊かで、機械、木材、食品などの工業が発達している。アンガラ川沿いに広がる市街は、美しく落ち着いた雰囲気から「シベリアのパリ」とも呼ばれる。市内には、イルクーツク大学をはじめとした学術施設、先端技術の研究所や工場などが数多くあるほか、市民の文化・芸術活動も盛ん。

オンラインによる若者交流

コロナウイルスの影響下での新たな手段としてオンライン交流会議を開催しました。

(1) イルクーツク市と金沢市の若者のオンライン交流会

- ①日時 2020年7月18日（土）14:00～15:30
- ②人数 金沢 10名・イルクーツク 10名
- ③テーマ 「コロナウイルス流行の間、人々はどのように余暇の時間を過ごすか？」

金沢市側は2011年～2019年にイルクーツクを訪問した10名が参加し、イルクーツク国立大学で日本語を勉強している大学2・3年生10名と、コロナウイルスが学校生活に与えた影響など、全体及び2グループに分かれて交流を深めました。

(2) モスクワ市のロシア人国際交流特使と金沢市の若者のオンライン交流会

- ①日時 2020年7月25日（土）15:00～16:30
- ②人数 金沢 8名・モスクワ 12名
- ③テーマ 「日本やロシアにおいて、コロナウイルスは人々にどのような影響を与えたか？」
- ④備考 金沢市国際交流特使 セルゲイ・リブキン氏が主催する日本語教室で日本語を学習するロシア人との交流

金沢市側は2011年～2019年にイルクーツクを訪問した8名が参加し、モスクワ側は日本語を勉強している大学生や社会人の12名と、自宅待機時の過ごし方など、全体及び4グループに分かれて交流を深めました。

金沢市、イルクーツク市及びモスクワ市もZoomでの交流会は初めてでしたが、3市の参加者から好評を得ました。

JAZZで日ロ交流

2020年11月9日にイルクーツク市で開かれたイベント「バイカルでジャズ」に、ジャズギタリストのTK水野さんが率いる金沢市内のバンドがビデオ出演しました。

「バイカルでジャズ」はイルクーツク市で2006年から開かれているジャズの祭典で、今年は新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となりました。

水野さんは、2013年大会に参加した経験があり、今回、金沢のジャズ仲間と動画で出演しました。水野さんは「現地で受けた心温かいおもてなしが忘れられない。音楽を通じた交流で元気づけたい」と話しました。

ロシア連邦総領事市長表敬

ミハイル・セルゲエフ駐新潟ロシア連邦総領事が、2020年10月20日、山野市長を訪問し、今後の交流への期待を伝えました。

総領事は、東京オリンピックのロシア連邦飛込連盟の事前合宿会場となっている金沢ブルームも訪問しました。

セルゲエフ総領事は「中止となった事業もあったが、一方、オンラインを活用した交流が進んでいる。東京オリンピックでは、選手は良い結果を見せたいと頑張っている。」と語り、山野市長は「若い人やスポーツを通じた交流を大切にしたい」と話しました。



総領事あいさつ

Topics

イルクーツク州「中学生・高校生日本地域学オリンピック」

2021年2月20日、イルクーツク国立大学（イルクーツク市）で、イルクーツク州「中学生・高校生日本地域学オリンピック」が開催されました。



手作り冊子

コンテストの様子

このコンテストは、毎年2月ごろ行われており、日本語学習の動機付けや、日本に関する知識の深化、教育機関間のネットワーク作りを目的として開かれます。

コンテストには個人部門と団体部門があり、個人部門では初級日本語の問題を解き、団体部門では日本の地域・名所・文化を紹介しました。

今年は、イルクーツク市第26学校とアンガルス市第2リツエイ（高等学校）の2校が参加してオンライン形式で開催され、団体部門では、それぞれの姉妹都市を紹介する小冊子を事前に手作りし、金沢市を紹介したイルクーツク市第26学校が優勝しました。生徒たちは「姉妹都市の友好関係を知るいい機会になった」と話しました。

「石川県ロシア協会」金沢駅・金沢市役所で写真展開催

石川県ロシア協会は、2020年10月18日～同20日にわたり、金沢駅東もてなしドーム地下広場において、交流写真展「写真で訪ねるイルクーツク」を開催し、姉妹都市イルクーツクの現在の様子を紹介しました。

また、石川県ロシア協会金沢支部（金沢市ロシア協会）が、今年設立20周年を迎えたことを記念し、11月9日～同13日に、金沢市役所においてイルクーツクの写真展を開催しました。

ゲント【ベルギー王国】



ドゥ・ビルデルリング大使の市長表敬

提携 1971年（昭和46年） **人口** 26万人

面積 158km²

フランダース地方の中心都市で、今も中世の面影を色濃く残す芸術・文化のまち。別名「花の都市」とも呼ばれ、花の博覧会「ゲント・フローラリア」は世界的にも有名。ゲント港はヨーロッパ屈指の内陸港で、繊維、鉄鉱などの産業が発達した。聖パー大聖堂や1817年創立のゲント大学のほか多くの博物館や旧跡があり、中でも鐘楼やベギン会修道院などは世界遺産に指定されている。

駐日ベルギー大使、公使参事官がゲント市在住の美術家「ミヒヤエル・ボレマンス」の展覧会を鑑賞

2020年9月18日、ロクサンス・ドゥ・ビルデルリング駐日ベルギー大使とエリザ・カストルド公使参事官が来訪しました。一行は、金沢大学では山崎剛学長を表敬訪問し、ゲント大学と金沢大学の交流について関心を寄せていました。金沢美術工芸大学では、山崎剛学長を表敬訪問し、金工の作業現場を見学し、作品の繊細さに感銘を受けていました。金沢商工会議所では、安宅建樹会頭を表敬訪問し、金沢の経済状況や外国企業の進出について意見を交わしました。

金沢21世紀美術館では、「ミヒヤエル・ボレマンス マーク・マンダース | ダブル・サイレンス」の内覧会を、島敦彦館長の案内で堪能しました。ミヒヤエル・ボレマンス（ゲント市在住）とマーク・マンダース（ロンセ市（ベルギー）在住）はともにベルギーを拠点に活躍しています。



金沢21世紀美術館で作品を堪能

ゲント市との創作菓子作品のオンライン交流を実施！

2021年2月10日、金沢市とゲント市のパティシエがコロナ後の交流を見据えて、両市の特徴を生かした創作菓子作品のオンライン交流を初めて行い、技術と魅力を高め合いました。

金沢市からは、石川県洋菓子協会金岩重典会長（ふらん・ド〜）、永田欽哉専務理事（ル・ミューゼ・ド・アッシュ）、南谷晃平（リッチ・モント）理事の3名が、マジパンで制作された前田利家とおまつの方等が、飴細工で制作された「金沢市の木」である梅の花を鑑賞し、周囲に五郎島金時の焼き菓子などを配した作品を作成しました。

ゲント市からは、ニコラス・ヴァネイセ氏が、ゲント市の教会の鐘楼にある守護獣ドラゴンをチョコレートで作成しました。作品は画家ヤン・ファン・エイクが活躍した中世の宝飾品をイメージし、ドラゴンの周りのチョコレートの食の豊かなゲントのまちを表し、土台はゴシック様式の聖堂の床をモデルとし、中世に使われていた食材で歴史を味で表現しました。両作品は発表

後、相互に贈られました。山野市長、デクレルク市長の姉妹都市提携50周年に向けたあいさつから始まり、作品紹介の後、石川県洋菓子協会コンクールの学生部門優秀作品について、スーパースイーツ製菓専門学校の内藤碧さんと金沢製菓調理専門学校の栗原義晴さんが紹介し、村山卓金沢市副市長がコロナ禍克服後の再会を期待してあいさつしました。



菓子交流



山野市長がレオポルド勲章オフィシエ章を受章！

2020年10月14日に、駐日ベルギー王国大使館において、山野市長にロクサンス・ドゥ・ビルデルリング大使より、レオポルド勲章オフィシエ章が授与されました。ゲント市との姉妹都市交流、日本・ベルギーの二国間の文化交流に長きに渡って貢献したことが評価されたもので、同章は、ベルギー国王より国家的に功績のあった人物に対して与えられる、ベルギー王国3勲章の最高位の勲章です。

Topics

ゲント市とオンラインジャズ交流

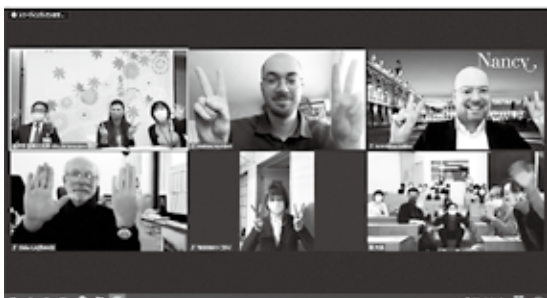
2020年11月1日、「Online ジュニア・ジャズ・フェスティバル金沢2020」が開催されました。ゲント市からは、ゲント王立音楽院のマールテン・ウェイレル教授等が演奏の動画を通して、指導しました。

Dr. ギスラン博物館所蔵作品展開催

2020年11月19日〜同29日に、金沢21世紀美術館において、「Dr. ギスラン博物館所蔵作品展（本市後援）」が福井大学の湊七雄教授や金沢美術工芸大学の神谷佳男教授を中心とした委員会主催で開催されました。

Dr. ギスラン博物館は精神医学博物館として世界的に充実したコレクションを誇っており、公衆教育および精神障害治療に関する理解の促進と、日本・ベルギー両国のさらなる文化交流と異文化理解を深めるため、同館が有するコレクションの中からアール・ブリュットや精神医学の歴史に関する約100点が展示され、期間中6千人近くの来館者が楽しみました。また、シンポジウム「アール・ブリュット：欧州の源流をたどる」も開催されました。

ナンシー【フランス共和国】



金沢美大・ナンシー美大オンライン交流会の様子

提携 1973年（昭和48年）人口 10万人

面積 15km²

フランス東部の中心都市で、12世紀中頃からロレーヌ公国の都として栄えた。機械、織物、クリスタルガラスなどの産業が発達しており、20世紀初頭の芸術運動アール・ヌーボー発祥の地としても有名。総合大学等があり、人口に占める学生の割合が高い学園都市であると同時に、国際的な音楽祭や国立バレエ団がある芸術都市として発展している。スタニスラス広場などが世界遺産に指定されている。

交換留学生の受入・派遣

金沢市から昨年派遣された小佐井あかねさん（金沢美術工芸大学）が約半年間（2019年9月～2020年3月）の留学生生活を終え、帰国しました。当初、2020年8月に帰国予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大のため期間を短縮して帰国しました。また、昨年から金沢美術工芸大学に留学していたミラー・カルラさん（ナンシー国立高等美術学校）が1年間の留学を終え、2020年8月にナンシーへ帰国しました。

なお、2020年9月から予定していた交換留学生の受入・派遣は、新型コロナウイルス感染拡大のため中止となりました。



書道を学ぶミラー・カルラさん



着物を紹介する小佐井あかねさん（中央）

金沢市・ナンシー市オンライン交流会

2020年11月27日に、金沢市・ナンシー市オンライン交流会を開催しました。これは、交換留学生の受入・派遣事業が中止となったことを受け実施したもので、金沢美術工芸大学・ナンシー国立高等美術学校の学生及び関係者およそ25名が自宅および大学から参加しました。

金沢市の村山卓副市長、ナンシー市のアントワヌ・ル・ソルズ副市長の挨拶の後、まずは金沢美術工芸大学を代表して、仁木このみさんと小佐井あかねさんがナンシー市での自身の留学生活や帰国後の作品制作について発表しました。その後、ナンシー国立高等美術学校を代表してマチュー・ハンベルトさん、ソレン・ウィラーさんが自身の作品について発表しました。

参加者は発表を興味深く聞き、質疑応答では発表者へ多くの質問がありました。オンライン交流という新しい試みでしたが、学生にとってはお互いの国に興味を持ち、留学への意欲を高めるきっかけとなりました。

ナンシーの料理人に向けた金沢の食文化紹介動画を制作

食文化交流の一環として、金沢芽生会にご協力を得て、ナンシーの料理人に向けた金沢の食文化紹介動画を制作しました。銭屋、つば甚、金城樓の料理人や女将が出演し、だしの取り方や飾り切りなどの包丁技、器へのこだわりやおもてなし、歴史と伝統を担う料理人としての信念などについて伝える内容となっています。動画はフランス語と日本語で制作しました。

2021年3月15日には動画を活用したオンライン研修会を開催し、ナンシー市の料理人や和食に興味のある市民およそ50名が参加しました。金沢市の山野市長とナンシー市のクラン市長、在ストラスブール日本国総領事館の赤松武総領事の挨拶の後、制作した動画の紹介、さらに、講師として銭屋の高木慎一郎氏が参加者からの質問に答えました。

制作した金沢の食文化紹介動画は金沢市公式YouTubeチャンネルに掲載されています。こちらのQRコードからぜひご覧ください！



ナンシー市にマチュー・クラン新市長が就任

2020年7月にマチュー・クラン新市長が就任し、山野市長が今後の両市の交流について、官民により幅広く行なわれることへの期待を伝えるお祝いのメッセージを送りました。



蘇州【中華人民共和国】



蘇州市中高生オンライン交流会議

提携 1981年（昭和56年） **人口** 722万人

面積 8,488km²

約2,500年前の「呉」の国の都として築かれた古都。温和な気候と美しい自然に恵まれ、古くから景勝の地として知られる。美しい庭園と寒山寺などの名所旧跡が数多く、拙政園や留園など9カ所もの庭園が世界遺産に指定されている。シルク刺繍などの特産品や食の地としても有名であるが、近年は、シルクなどの特産品のほか、近郊に日本企業を含む多くの外国企業が進出し、めざましい経済発展を遂げ、その経済力は中国国内トップ10にランクインしている。2014年12月、本市と同じクラフト分野でユネスコ創造都市ネットワークに加盟。

蘇州市中高生オンライン交流会議の開催

金沢市では毎年、蘇州市と交互に中学生の派遣、受入を行っています。今年度は直接の往来ができなため、7月25日にオンライン交流会議を開催しました。金沢市からは、2018年の第7回中学生親善団蘇州市派遣事業に参加した8名、蘇州市からは当時交流した蘇州市田家炳実験中学校の生徒を中心に10名が参加し、2年ぶりに顔を合わせました。

会議では、前回蘇州を訪問してからの自身の状況や、コロナの影響による生活の変化、将来の夢などを発表しました。



蘇州市、大阪府池田市との3市長オンライン会議

2020年7月30日に、蘇州市、大阪府池田市、金沢市の市長によるオンライン交流会議を開催しました。蘇州市



（写真左上：蘇州市李市長、右上：金沢市山野市長、下：池田市富田市長）

と池田市は姉妹都市提携をしており、3市がそれぞれの魅力や国際施策を紹介することで、交流を深めました。

蘇州市双塔市場と近江町市場の相互PR

蘇州市民の生活を支え、観光スポットとしても栄える蘇州市の「双塔市場」が2019年末にリニューアルオープンし、「金沢で同様の役割を果たす近江町市場と相互PRをしたい」と蘇州市より提案があり、実現しました。双塔市場の動画は本市の公式フェイスブックと微博で公開し、金沢市で作成した近江町市場のPR動画は蘇州市公式SNS「引力播」にて公開されました。その後、近江町市場の動画は蘇州市外事弁公室の展示映像にも加えられ、蘇州市民の方々に楽しんでいただいています。



Topics

やまの し ちょうちゅうごく かいこうけいざいがくいんだいがく がくせい
山野市長が中国・海口経済学院大学の学生に
オンラインで授業

2020年10月12日に中国・海南省の海口経済学院大学外国語学部日本語科の清水洋子博士のオンライン授業が行われ、蘇州市出身者を含む学生30名に対し、山野市長が金沢の観光と文化について紹介しました。

市長から、金沢のまちづくりについての説明をした後、学生からは金沢市の未来像などについて質問があったほか、「ふれあい音頭いね金沢」の踊りの練習の成果を紹介するなど、和やかな雰囲気活発な質疑応答が交わされました。

全州【大韓民国】



「第19回全州伝統工芸展in金沢」の出品品

提携 2002年（平成14年） **人口** 65万人

面積 206km²

「後百済」の都として千年余りの歴史を持つ古都で、李氏朝鮮を開いた李成桂の本郷としても知られる。国指定宝物の豊南門（ブンナムムン）、韓屋村などの歴史遺産や韓紙（ハンジ）、韓（ハン）ソリなどの韓国伝統文化が創造的に継承されていることが高く評価されている。近年は、炭素繊維産業や「韓スタイル事業」を通して先端技術と伝統が調和する経済を追求するとともに、映画映像産業、生物生命産業なども育成し、21世紀新産業都市への変貌を図っている。

「全州市・金沢市姉妹都市交流 第19回全州伝統工芸展in金沢」を開催！

2020年12月8日～12月13日の期間、金沢21世紀美術館の市民ギャラリーにて、全州市の伝統工芸品を紹介する工芸展を開催しました。

金沢市と全州市は2002年の姉妹都市提携以来、両市の伝統工芸品を交互に紹介しあう民間交流を実施しており、第19回となる今年度は金沢市での開催となりました。工芸展では韓紙工芸などをはじめとする韓国の工芸作家40名に出展していただき、計56点もの伝統工芸品を紹介しました。

また、金沢の竹工芸作家による「『韓紙×竹工芸』ワークショップ」を開催しました。

講師を務めていただいた本江和直斎氏、橋本紗織氏は、2019年に全州で行われた工芸展に参加されており、ワークショップでは竹と韓紙を組み合わせたうちわや風車を作成しました。参加者は紙の可能性や韓国の文化に触れ、会場はとても賑わいました。



全州伝統工芸展

駐新潟大韓民国総領事館総領事が来沢

2020年10月19日、石川・富山・新潟・長野の4県を管轄している駐新潟大韓民国総領事館から鄭美愛総領事が来沢し、市長と懇談しました。

鄭総領事はこのたび離任することとなり、在任の3年間を振り返りました。積極的に日韓交流の拡大、友好交流にご尽力されてきたことに山野市長は感謝の意を表しました。

全州市との市長オンライン会議を開催

2021年2月18日に、両市の市長によるオンライン会議が開催され、会議には金沢市立工業高等学校の田鶴直人校長も同席し、今後の国際交流事業について話し合いました。

金沢市立工業高等学校と全州工業高校は姉妹校提携をしていますが、コロナ禍で相互訪問が難しいことから、全州市からの提案により、生徒同士のオンライン交流を行うこととなりました。

また、全州市は食文化の分野でユネスコ創造都市ネットワークに認定されていることから、新たに料理人同士の交流を行うことを山野市長が提案し、全州市側もこれを快諾しました。これまでの事業に加え、さらに交流の幅が広がることとなりました。



全州市市長オンライン会議

大連【中華人民共和国】



大連中山広場の夜景（撮影：沙璦）

提 携 2006年（平成18年） 人 口 598万人

面 積 12,574km²

遼東半島最南端に位置し、中国東北部を代表する港湾工業都市で貿易金融の中心都市。総延長 1,900 kmにおよぶ美しい海岸線と起伏に富んだ地形に恵まれ風光明媚で活力溢れたファッションとサッカーをイメージした観光戦略都市でもある。また、従来の船舶・鉄道車両などの工業基地に加え、郊外に位置する「大連金普新区」を中心に、3,300 社以上の日系企業が進出しており、先端技術の発展を目指した国際都市の建設に邁進している。

コロナ禍での医療物資の相互支援

コロナ禍で世界的に医療物資が不足した2020年春に、大連市とマスクの相互支援を行いました。

マスクなどの医療物資が不足していた大連市からの要請を受けて、本市で備蓄していたサージカルマスク10,000枚を2月5日に送付しました。送付したマスクは現地の医療機関等で活用されました。その後大連市ではマスクなどの医療物資の不足が解消され、返礼として本市に支援の申出があり、3月27日にマスク25,000枚をはじめとした医療物資が寄贈されました。

物資を入れてある箱には「春雨や身をすり寄せて一つ傘。金沢頑張れ！」とのメッセージが添えられていました。



大連から届いたマスク

大連市に陳紹旺新市長が就任

2020年5月に新たに陳紹旺氏が就任し、山野市長から多分野にわたる両市のさらなる友好交流に向けて期待するお祝いのメッセージを送りました。



大連市からのメッセージ

大連市もまた、コロナウイルスの影響を受けていますが、大連市の国際交流課にあたる「大連市人民政府外事弁公室アジア処」を代表して、陳美剛処長から、金沢市へメッセージが届いているので紹介します。

「金沢市の皆様、こんにちは。

昨今、新型コロナウイルスによる感染拡大で、世界が一変しました。2020年2月、大連市で感染が広がった際、金沢市から寄贈いただいた医療物資（マスク）が大連空港に到着した時、同じ飛行機に乗った大連市民が自ら列に並んで「友好都市金沢、ありがとう」と金沢の支援物資を運ぶ弊社役所のスタッフを見送っていたのが鮮明に記憶に残っています。困

難な時こそ、金沢市に援助の手を差し伸べていただき、自分も今までない感動と感謝の気持ちを覚えました。「春雨や身をすり寄せて一つ傘」、この日本の俳句は最も両市の気持ちを表しているのではないのでしょうか。

光陰矢のごとし、あれから1年が立ちました。大連もこの1年の間、数回のコロナ感染拡大の試練を経験してきて、今やっと正常な生活を取り戻しつつあります。防疫と経済発展の両立を取りながら、在大連に日本企業と日本の方々を全力で支援しています。日本との交流は弊社にとって重要な仕事のひとつであり、2020年にコロナ感染の影響を受けているにも関わらず、2020中日（大連）博覧会・中日韓スポーツ文化ウィーク・大連中日アカシア懇談会などの開催・中日（大連）地方発展協力モデル地区の設立、日本の地方自治体と「ゴミ分別処理」や「污水处理」のネット会議など、日本との交流が途絶えなく、盛んに行ってきました。その成果も多くあげています。

2019年に私は大連市食文化交流団を率いて、金沢の「世界8都市・食の祭典」に参加しました。綺麗なまち、歴史と現代の完璧な調和を実現している金沢市のまちづくりと運営理念に感心しました。大連市にも100年以上の歴史を持つ建造物が多くありますので、両市は古い建物への保護と再利用や新旧建造物の両立などの理念とノウハウについて交流できればと思っています。また、例年、大連市と金沢市のマラソン選手の相互派遣は両市の草の根の交流に大きく寄与していると認識しております。コロナが終息後、ぜひ相互派遣事業を続けていきたいと思っています。

結びに、大連へのご来訪を歓迎します。大連に訪問の際には、獲れたての海の幸・甘い果物・四季の変化に富む景色・心あたった市民、大連のおもてなしを楽しんでください。」



星海湾（撮影：卞志策）

■「かなざわ国際交流まつり2020」開催

北陸最大級の国際交流イベントであるこのまつりは、金沢市民が世界の文化、国際協力活動などに身近にふれあい、親しむことで、国際理解や市民レベルの国際交流を促すとともに、金沢で暮らす外国人市民と日本人市民が同じ地域社会の一員として相互理解や交流を深めることにつながる機会を提供していくことを目的に開催しています。

28回目の開催となる今回は、2020年10月10日、11日に金沢市役所庁舎前広場にて行いました。市内・県内から多くの国際交流関係団体（27団体）が参加し、2日間で約15,000人の市民の方々にお越しいただきました。

今回はコロナ禍での開催ということで、料理の販売を行う「ワールドグルメコーナー」については、設置を見送ることとなりましたが、世界の民芸品や情報に触れることができる「ワールドバザール&インフォメーションコーナー」「体験コーナー」「パネル展コーナー」の各コーナーには多くの方々にお越しいただき、「ワールドステージ」においては、世界のダンスや音楽を来場者と堪能していただくことができました。

イベントを開催するにあたり、感染症対策を万全にするとともに、マスクの着用や手指の消毒などの呼びかけを徹底し、まつりを無事開催することができました。



ステージ上での生演奏



ワールドバザール&インフォメーションコーナー



体験コーナー



パネル展コーナー

■「留学生のための文化体験プログラム」

金沢国際交流財団では、主に新規留学生を対象に、金沢のまちに対する親しみや愛着を一層深めてもらうことを目的に、金沢の歴史を学び、伝統文化を体験するイベントを定期的に開催しています。

昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により、4月に入学予定だった留学生が入学できない状態が続き、イベントも開催できない状況でしたが、秋の制限緩和により、後期入学す

る留学生が増えてきたことを受け、12月と1月に2回実施できました。このコロナ禍の状況で、金沢の伝統文化を直に体験する機会がない留学生にとって、とても貴重な体験となったようでした。

12月5日 第1回「押寿司づくり・金箔貼り体験」

金沢で祭りや婚礼などの“ハレ”の日に食べられる伝統の押寿司「笹寿司作り体験」と、国内の生産量約9割以上を誇る、「金箔貼り体験」を行いました。

笹寿司作りは、東山にある「金沢寿し」で、カニやサバ、サーモン、レンコンなどの具材を使って作るというものでした。参加した留学生は和気あいあいと作業をし、初めて作るお寿司にとっても満足そうでした。金箔貼り体験は、塗り箸に自分がデザインした金箔を貼るというものでした。金箔が飛ばないように息を殺しながらの作業でしたが、それぞれ独創的なデザインのお箸が出来上がりました。



笹寿司作り体験



金箔貼り体験

1月17日 第2回「金沢芸妓の舞鑑賞・友禅染体験」

茶屋街の芸妓による踊りや太鼓「金沢芸妓の舞」鑑賞と、長年受け継がれる着物の染色技法の一つ加賀友禅のハンカチ染め体験を行いました。

「金沢芸妓の舞」は、県立美術館ホールで鑑賞しましたが、初めてみる芸妓さんの優雅な踊りに参加者は皆、魅了されているようでした。鑑賞の後は、「お座敷遊び」の『とらとら』に留学生も参加させてもらいました。その後、小將町にある加賀友禅会館で、兼六園のことじ灯籠や、桜のデザインの型紙を使って、ハンカチを染めました。筆に色をつけて、外側を濃く、内側を薄く染める染色方法ですが、留学生は慎重に筆を運び、赤や青、緑や紫色など鮮やかにハンカチを染めていました。



お座敷遊びに挑戦



友禅染体験

国際交流ダイアリー

4～6月

- 4月3日 中国・蘇州市、大連市からマスク等支援物資寄贈
- 4月13日 中国・蘇州市青年連合会からマスクの寄贈
- 4月30日 中国・大連市の遼寧成大国際貿易有限公司からマスクの寄贈
- 4月30日 ベルギー・ゲント市とフランス・ナンシー市とのオンライン会議
- 5月14日 台湾・台南市台日文化友好交流基金会から医療物資の寄贈
- 5月14日 台湾・台南市から医療物資の寄贈
- 5月18日 台湾政府からマスクの寄贈
- 6月4日 中国・広東省対外友好協会からマスクの寄贈
- 6月5日 金沢－蘇州サポーターズクラブからマスクの寄贈

7～9月

- 7月1日 駐日チェコ共和国大使館 マルチン・トムチョ大使 来訪
- 7月9日 オリピック関連事業推進室 フランスのパラアスリート向け動画配信開始(全6回)
- 7月18日 イルクーツク市と金沢市の若者のオンライン交流会議 開催
- 7月25日 中国・蘇州市中高生オンライン交流会議 開催
- 7月25日 ロシア在住の国際交流特使らとのオンライン交流会議 開催
- 7月30日 山野市長 中国・蘇州市と大阪府・池田市との3都市市長オンライン交流会議 出席
- 8月26日 八田興一文化芸術基金会からマスクの寄贈
- 9月18日 駐日ベルギー大使館 ロクサンヌ・ドウ・ビルデルリング大使、エリザ・カスタルド公使参事官 来訪
- 9月18日 山野市長 台湾・台南市とのオンライン交流会議 出席
- 9月29日 山野市長 バーチャル・ジャパニーズフード&レストランエキスポ 出席

10～12月

- 10月12日 中国・海口経済学院大学 清水洋子博士 来訪
- 10月14日 山野市長 駐日ベルギー大使館にてレオポルド勲章オフィシエ章を受章
- 10月19日 駐新潟大韓民国総領事館 鄭美愛総領事 来訪
- 10月20日 在新潟ロシア連邦総領事館 ミハイル・セルゲーエフ総領事 来訪
- 10月24日 企画調整課職員 タイ・ナーン県クラフト&フォークアートフォーラム2020 出席
- 11月19日 Dr.ギスラン博物館展 開催(～11/29)
- 11月25日 在日フランス商工会議所 マニグリエ真矢理事 来訪
- 11月27日 金沢美術工芸大学とフランス・ナンシー国立高等美術学校のオンライン交流会
- 12月8日 金沢市・金沢市姉妹都市交流第19回全州伝統工芸展in金沢 開催(～12/13)
- 12月15日 金沢体験プログラム サンフランシスコ プレシディオ中学校 田中理恵教諭 オンライン会議
- 12月24日 駐日アゼルバイジャン大使館 ギュルセル・イスマイルザデー大使 来訪
- 12月～1月 オリピック関連事業推進室 フランスのパラリンピック水泳チームへの応援うちわ作成

1～3月

- 2月10日 ベルギー・ゲント市との創作菓子作品のオンライン交流 両市長出席
- 2月18日 山野市長 韓国・全州市長とのオンライン交流会議 出席
- 2月20日 姉妹都市サポーターズクラブ特使交流事業
- 2月22日 駐日リビア国大使館 アメッドM.R.ナイリ臨時代理大使、駐日イラク共和国大使館ハリール アブデル サヒーブイスマイルアルムーサウィー特命全権大使 来訪
- 3月2日～3月13日 フランス・パリ市のパリ日本文化会館で、第8回「伝統と先端と～日本の地方の底力～」に金沢箔を出展
- 3月15日 フランス・ナンシー市と金沢市の料理人によるオンライン研修会 開催 両市長出席
- 3月25日 国際交流サポーター研修会 開催

自治体国際化協会派遣職員的一年

いけだ しほ
池田 志穂

皆さん、Bonjour！2019年4月より、金沢市国際交流課付けで一般財団法人自治体国際化協会のパリ事務所に派遣されており、池田志穂と申します。この記事を書いている今、まもなくパリでの2年間の勤務を終えようとしています。

パリでの2年目となる2020年は、コロナウイルスに始まり、コロナウイルスで終わる1年でした。フランスでは、3月上旬から感染状況が急激に悪化し、政府による強力な措置が立て続けに実施されました。まず、3月12日に、16日からの全国の学校一斉休校を決定し、14日には、同日24時をもってカフェやレストラン、店舗等（食料品や生活必需品等の店舗除く）の営業禁止を決定しました。16日には、マクロン大統領がテレビ演説を行い、17日正午からの外出禁止令（ロックダウン）や対EU諸国も含めた国境封鎖を発表するとともに、“Nous sommes en guerre.（我々は戦争状態にある）”という表現を繰り返し、国民に緊迫感を伝えました。

外出制限下では、市民は生活必需品の買い物等のための外出しか認められず、外出時には政府指定の証明書が必要、違反時には罰金が科せられるなど、大変厳格なものでした。私自身、期間中一度も警官の尋問等に遭遇することはありませんでしたが、当初は警察の取締りに対する不安と爆発的に広がり続ける感染への恐怖でスーパーに行くことすら憚られる状態が続きました。幸い、感染状況の収束に伴い、5月11日から外出禁止令の段階的な解除が行われ、同日から商店等が再開、6月15日からはパリでもカフェやレストランの営業が認められ、少しずつ日常生活が戻り始めました。（その後、感染第二波の影響により10月30日に再ロックダウン）

コロナ禍では業務面でも大きな影響を受けました。前年度からパリ事務所が準備を進めてきた事業や参加予定のイベントや会議がすべて中止となるなど、通常の活動を続けることが困難になりました。



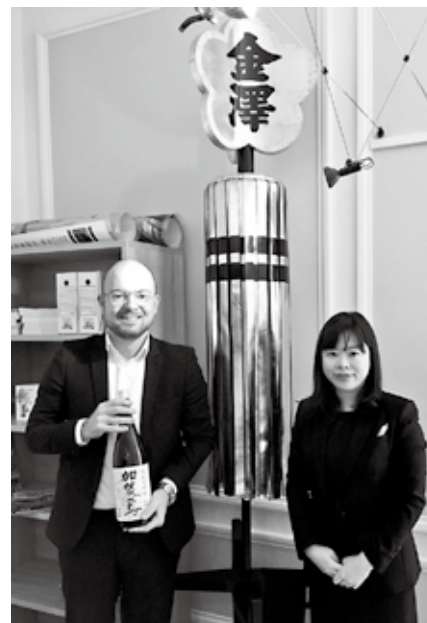
観光客の姿が消えたルーブル美術館

そのような中、現地にいる強みを生かし、日本の自治体の役に立つ最前線の情報を少しでも発信できないかと、各職員がコロナ禍におけるフランスの自治体政策の調査を行いました。私は自転車利用促進政策についての調査を行い、その内容をホームページで発信したところ、在京FMラジオ局J-WAVEの俳優・別所哲也さんの番組から依頼を受け、ラジオで解説するという貴重な機会をいただきました。活動が制限される中でも、我々の調査が役に立てたことに大きな喜びを感じました。

また、2021年1月末には姉妹都市ナンシー市でのミニスタージュ（研修）も実現しました。コロナの感染が続く中ではありましたが、実際現地に赴くことでナンシー市の外国人施策や交通政策などを自分の目で確かめることができ、とても有意義な経験となりました。また、7月に就任された新しい国際交流担当ルソールズ副市長にも面会させていただき、両市の強みを生かした食や芸術分野での交流継続や、お互いの課題解決のための方策の共有など、今後の交流に向けての貴重なご意見をいただきました。

パリでの2年間の勤務を振り返ると、文化や習慣、価値観の違いにとまどうこともありましたが、日々の業務に加え、様々な場面における現地自治体職員との意見交換、大学や旅行博などの大きな舞台でのフランス語でのプレゼンテーション等、様々な挑戦を乗り越えることで、自らの視野を広げるとともに大きな自信にもつながりました。

4月からは金沢市での勤務に復帰しますが、国際関係分野だけでなく、本市の幅広い分野の業務においてパリで培った経験を活かし、本市の発展に貢献していきたいと思っています。パリ事務所の活動の様子は、クレアパリのホームページ（<https://www.clairparis.org/>）で発信しておりますので、ぜひご覧ください。



ナンシー市
ルソールズ国際担当副市長
との記念撮影

自治体国際化協会派遣職員的一年

いわた のりこ
岩田 典子



写真左：
元CIR ソフィー・ボックランド（ベルギー）/
中 央：
元協力交流研修員 趙銀平（中国）

2020年4月から、一般財団法人自治体国際化協会（クレア）東京本部に派遣されています。クレアは、世界に7つの海外事務所を持ち、外国語指導助手（ALT）や国際交流員

（CIR）で知られるJETプログラムの運営をはじめ、多方面から自治体の国際化推進のサポートを行っています。私は、経済交流課という部署に所属し、海外販路開拓やインバウンド等、自治体の経済活動の施策の立案や実施における幅広い支援を行っています。

これまで海外との交流は、基本的に人の往来をベースに実施されていたものが多いと思いますが、昨年からの往来自体が難しい状態となりました。どうしても延期をせざるを得ない事業が多くなる中、一方で、この状況下で何ができるのかを考え、オンラインツールを活用

するなど、工夫して事業運営に取り組む一年でした。また、自治体をサポートする業務を通じて、自治体が新しい考え方や手法を取り入れ、海外交流を図る動きの変化を感じる事ができました。

金沢市との連携においては、コロナ禍での国内自治体の動きの一つとして、金沢市デジタル工芸展の取り組みをクレアHPや自治体向けのメールマガジンで紹介したほか、クレア主催の海外経済セミナーでは、身近な外国人人材の活用事例の一つとして、市国際交流課長が国際交流員の活躍や元国際交流員との繋がりを活かした国際交流特使事業等を紹介する機会を持つことができました。

東京での勤務生活は、着任1週間後に緊急事態宣言が発令されるという形で始まりでしたが、異なる職種や日本各地の自治体の職員の方とともに仕事できた大変貴重な一年でした。来年度からはパリ事務所での勤務が始まる予定です。コロナ禍ではありますが、その中だからこそその知恵を絞って取組み、クレア職員として国内自治体とフランスとの交流のサポートをとおして様々なことを学び得ながら、金沢とフランスとの交流の広がりへと繋げられるよう、頑張りたいと思います。

国際交流専門員の一年

デュボワ・マチルダ（フランス）



皆さん、bonjour! フランス出身のマチルダです。こちらは最後の親善ニュースの記事になります。

2014年の夏に金沢に着任し、JETプログラムが許す限りの期間はいたいなと思っていたのですが、ほぼ7年間金沢市役所に勤めるとは思いもしませんでした！

（本来、国際交流員の最長契約期間は5年間です。）

当初の私を思い出すと、右も左も知らず何事も大パニックだったことを今でも記憶しています。とても親切な同僚のおかげで、時間が経つにつれ環境にも仕事にも慣れて、仕事の効率も日本語能力も上達したのではないかと思います。

以前の親善ニュースでもご紹介したと思いますが、市立の小・中学校に訪問しフランスを紹介したり、姉妹都市のナンシー市と連絡調整をしたり、ナンシー市からの代表団の受け入れ、または金沢市からの代表団のフランス訪問の随行から、金沢市が誇る文化の体験（お茶・お着付け・能楽鑑賞など）までさせていただきましたし、金沢市民の方々がなかなかできない体験もさせていただきました（レンコン掘りはしたことありますか？！）。

いろんな方々の対応をすると共に金沢の知識も増し、今となっては金沢を割と知っていると云えるのではないかと思います（笑）。

さて、去年を振り返ってみると、いろいろと大変な一年でしたね。2月から本格的にコロナウイルスが広まり、世界を自由に移動することができなくなりましたね。感染者、濃厚接触者、感染拡大対策などたくさん新しい言葉が日常生活に侵入してきて、海外在住はつらい・不安だと初めて思いました。

国境を越える移動が不可能（少なくとも困難）な時期に東京2020オリンピック・パラリンピック大会の延期が発表され、数年前から頑張っていた金沢での事前合宿の目的が遠ざかってしまいました。もちろん、仕事が延期された以外、自分自身にはさほどの変化がありませんでしたが、フランスの選手たちおよびスポーツ界がづらい思いをしているところを見て、さらに応援したくなりました。皆さまも、ご自分やご家族、ご友人に大変な思いをされた方がいらっしゃると思います。そういう時期こそ、皆で力を合わせてコロナが早く終息するように努力しましょう。

最後になりましたが、長年大変お世話になりました。今後も金沢とご縁を忘れずに頑張っていきます！

Au revoir!

国際交流員の一年

ロスマン・ヘイリー（アメリカ）



Hello, everyone! (皆さん、こんにちは！)

アメリカ、ニューヨーク出身の国際交流員、ロスマン・ヘイリーです。今回は三年目として報告いたします。

今年は引き続き翻訳や通訳をしたり、金沢市国際交流特使養成塾を運営に開催したりしました。この一年間のハイライトは何かと言うと、金沢市とバッファロー市姉妹都市交流事業である「金沢市・バッファロー市姉妹都市バーチャルJAZZ交流（Kanazawa/Buffalo Sister City Virtual Jazz Exchange）」の実施でした。金沢とバッファローを代表する中高生に、アメリカの伝統的な曲である「AMAZING GRACE」の楽器演奏を一人一人録音してもらい、それぞれの録音を寄せ集めて、姉妹都市オンラインJazz交流の動画を制作しました。このオンライン

国際交流は私が交流事業の企画から最終的な動画編集までを担当しました。自分の携わった仕事が成功して国際交流に繋がったことに何よりも誇りを持ちました。

2020年は様々な理由で忘れられない一年となりました。コロナウイルスの影響によって、姉妹都市への海外出張や交流事業は中止になってしまい、ウイルス感染予防対策に対応するためにイベント開催の計画を徹底的に考え直さなければならませんでした。しかし、予期できない障害や慣れていない仕事があっても、そういう現状に応じて挑戦する機会が何回もあり、自分にとっては成長できる貴重な経験になりました。

悲しいことに、今年の夏でJETプログラムを卒業することになりました。アメリカに帰国し、次のアドベンチャーに進むのを大変楽しみにしていますが、3年間の尊い思い出や金沢の皆さんからいただいたおもてなしや親切さには感謝の念で一杯です。

ヴェレルン・ラーニ（ベルギー）



Hallo iedereen! (皆さん、こんにちは！)

金沢に着任してから、もう1年半になるとは思えません。時間が経つのはあっという間です。金沢での生活に少しずつ慣れ、金沢の四季を体験

し、仕事でも学校訪問から通訳や動画編集まで様々なことを経験しました。

今年は世界中が大きく混乱した一年間でしたが、悪いことだけを見るのではなく、いいところを思い出すのも大事だと思います。欧米では外出自粛期間中に皆が新しい趣味を始めるとよく言われています。私もそれに乗って、今年色々やってみました。マスクの作成やパンを焼くのはもちろん、写真撮影や金沢・石川の歴史の勉強にも力を入れています。

勉強の方はゆっくり、マイペースで進んでいるので、まだ分からないことの方が多いですが、当然いつか仕事にも関係すると思います。

ただ、写真撮影の方はすぐ仕事に結びついて驚きました。直接会うことができなくなった今、国際交流課はオンライン交流に力を入れています。そんな中、毎月フェイスブックに投稿する「虹通信」という便りを始めました。金沢を散歩して撮った写真をまとめてアップすることが仕事になるとは一年半前には想像もできなかったことです。

この一年間、直接往来ができなかったらオンラインで事業を行う、直接会うことが危なかったらメッセージを送ることでお互いを応援するなど、人がお互いに助けながらこの問題を乗り越えていく姿を見て感動しました。

国際交流員としての旅が順々に続くことを嬉しく感じています。皆様、これからも大変お世話になると思います。金沢にいるこの時間をうまく使って、できるだけ多くのことを学んで、できるだけ多くの人と話して、金沢市、その歴史、文化と市民をより深く理解できるようになりたいと思います。よろしく願い申し上げます。

Dankuwel en tot de volgende! (ありがとう、そして、また今度！)

でん れい ちゅうごく
田 玲 (中国)



ダージャーハサー みなさま
大家好！（皆様、こんにちは！）
中国出身の国際交流員の田玲で

す。光陰矢のごとし、もう一年があ
つという間に経ちました。私のふる
さとの漢中市では冬に雪が少ないの
で、今年は金沢で雪がたくさん降り、雪の中で長町武家
屋敷、兼六園、金沢城などをぶらぶらし、たくさんの写
真を撮り、冬の金沢の美しさを身をもって感じました。
新型コロナウイルス感染症の影響で実家に帰れなかった
ですが、お正月の1日に友達と一緒に尾山神社で初詣を
しました。2021年はいい一年でありますように心から祈
っています。（笑）

2020年は金沢市と蘇州市は姉妹都市提携39年目、大連
市と友好交流都市提携14年目でした。4月のころ、新型
コロナウイルス感染症の感染拡大によって、世界中に不
安と閉塞感が広がっており、姉妹都市にエールを送るた
めに、定期的に中国のSNS微博で金沢の伝統文化や風景
などをシェアし続けています。例年はお互いに中学生親
善団やマラソン代表団などを相互派遣していましたが、

今年は海外への渡航が難しい中、代わりに7月末に蘇州
市中高校生オンライン交流会議を行いました。両市の学生
は新型コロナウイルス感染症による学校生活の変化を話
し合いながら、将来の夢も語り合いました。学生達が今
こそ、深い交流でお互いに支え合う姿に感動してしまし
た。

その他、金沢市民向けの文化講座、学校訪問などを新
型コロナウイルス感染症に留意しながら、対面式やオン
ラインの形で、参加者の方々々と気軽に話し合いなが
ら、やり取りができることをありがたく思いました。ま
た、今年は「国際交流特使養成塾」の運営を任せていた
だき、企画から実施まで、大変勉強になりました。私1
人でわからないことが多くて、優しい上司、同僚と先輩
がいろいろ指導してくれるおかげで、無事に7回を行
いました。

2021年は金沢市と蘇州市は友好交流の40周年、大連市
とは15周年の節目の年を迎えます。金沢市と蘇州市と大
連市、お互いの文化への理解を深めながら友情を築いて
いくことに、また中国と日本の間の交流が引き続き続け
られるように、微力ながらも頑張っていきたいと思いま
す。どうぞよろしくお願いいたします。

キム セヨン かんこく
金 世英 (韓国)



皆さん！アンニョンハセヨ！（こ
んにちは！）

2020年12月から金沢市の国際交流
員として仕事させていただくこと
になりました韓国の金世英と申しま
す。元々は2020年4月に着任する予

定でしたが、新型コロナウイルスの影響で半年くらい
遅れることになりました。海外での、そして、日本での
生活は初めてなので、金沢で働くことになった時、
本当にうれしかったです。大切に伝統を受け継ぎなが
ら現代的な美しい建物もたくさんある素敵な金沢で第
二の人生をスタートする想像だけで、ドキドキしまし
た。しかし、新型コロナウイルスのパンデミックで状
況がどんどん悪くなり、日本に行けなくなるかもしれ
ないという不安で毎日を過ごした記憶があります。そ
して、ついに日本へ行けるようになった時、すぐ金沢
に行くこともできず、2週間隔離生活をしたことはた
ぶん一生忘れられないと思います。早くコロナウイル
スが終息して、こんなにいつもマスクをつけて、何も

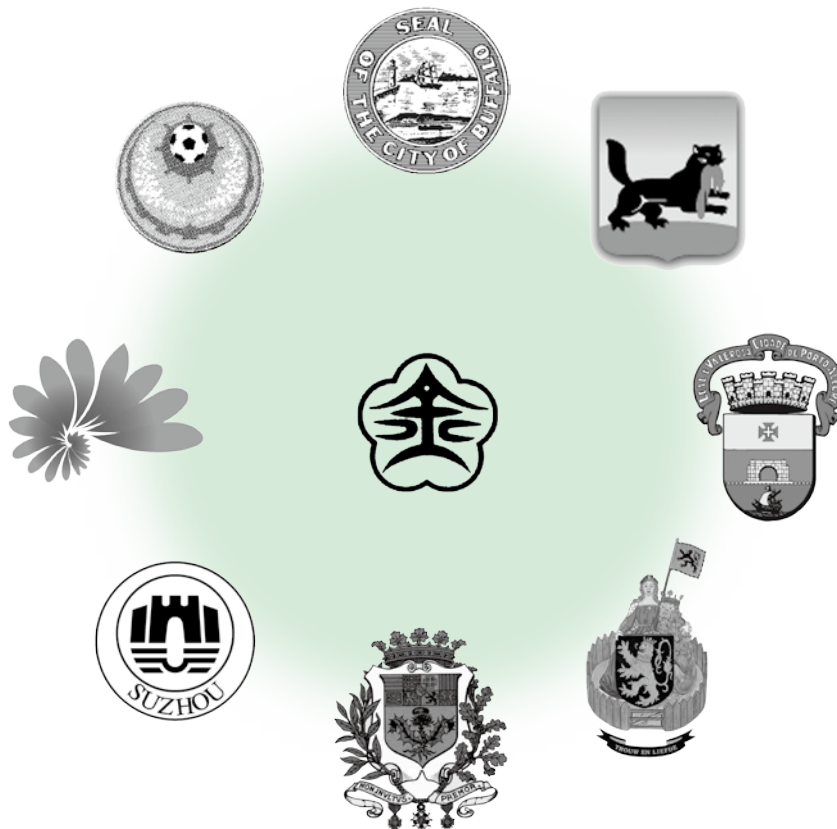
できなかった時期もあったんだと笑顔で言える日が来
てほしいですね。

金沢市の国際交流員として、これから様々な仕事が
始まりますので本当にワクワクしています。姉妹都市
との交流イベント、市民向けの語学・文化講座、学校
訪問など、まだ経験していないことが待っていて不安
もありますが、日本と韓国の架け橋としても、韓国人
としても、金沢の方々との触れ合いは国際交流員しか
経験出来ない大事なチャンスだと思っています。これ
からのたくさんの出会いを楽しみにしております。

仕事以外の場面でも日本の四季を感じながら金沢の
伝統工芸や文化などを少しずつ知っていきたくです。
いつか家族や友達に誇りをもって金沢のことを紹介
し、魅力を伝える韓国人になりたいと思います。

2021年は日韓関係もより良くなり、金沢市と全州市
との交流もより進むことを心より願い、期待しており
ます。交流を深めるため、韓国の国際交流員として、
常に学ぶ姿勢をもって少しでも国際交流に貢献できる
ように頑張りたいと思っています。

皆さん、どうぞよろしくお願いいたします。カムサ
ハムニダ！（ありがとうございます！）



第47号 (2020年度・令和2年度)

2021年発行

金沢市姉妹都市交流委員会

事務局：金沢市都市政策局国際交流課

TEL 076-220-2075 FAX 076-220-2069